

A photograph of a forest with tall, straight trees and a dense green undergrowth. The trees are light-colored with vertical bark texture. The ground is covered in lush green plants and ferns. The lighting is soft, suggesting a dappled sunlight effect.

令和6年度 池田町における 森林環境譲与税の 主な活用状況等

森林整備事業

■ 地元大径材利用実証事業

前年度に伐採した80年生以上の杉の大径材550本を3m～6mの規格に造材し、町内土場にて販売を実施。従来の木材市場出荷販売よりも優位性があることを実証した。

【事業量】

造材・搬出本数1,735本、1,212m³相当
A材販売量：783m³ 販売単価7,574/m³
B材販売量：264m³ 販売単価9,906/m³
C材販売量：165m³ 販売単価9,843/m³



80年を超える地元産杉材が集積された貯木場
および土場販売により搬出される様子

■ 実験林整備事業

町の目指す3区分の森づくりのため、町有林にて施業方法や成長量等を毎年継続して実験・調査を実施している。

皆伐・再造林施業0.62ha、複層林施業0.24haの区域では獣害被害調査や、保育（下刈り等）に関するコスト分析等を継続的に実施。



皆伐・再造林等実験林施業地

■ 支障木伐採事業

集落や道路沿いの林沿部にある、景観を阻害したり電線に触れる支障木を伐採し、景観形成やライフライン確保を図り、美しく安心安全な環境整備を実施。



施業前



施業後

人材育成事業

■ 森林整備にかかる専門家との勉強会

木望の森100年プロジェクトでは、町が目指す森づくりとして、「優良材の生産・出荷を目指した『木材生産機能林』」「水源涵養など森林が有する機能を高めるため、針広混交林化を目指す『多面的機能発揮林』」「奥地にある原生林では、極力手を加えずに見守る『保護保全林』」の3区分の森づくりの考えている。

この森づくりについて、町において施業等の実験を行う中、専門家を招き、現地研修等を通じ施業技術などを学び、職員等の知識と経験値向上を図った。



森づくり研修



■ 木工製品づくり職人育成

町産の杉や広葉樹を活用した新たな木工製品づくりに向けた企画立案、製造から販売までの過程におけるマネジメントを専門講師から学び、ウッドラボいけだ職員に必要なスキルアップを通じ、職人の人材育成を図った。



講師と対話するウッドラボいけだ職員

公共施設等の木材利用

■節目ギフトとして町産材を活用した木製記念品贈呈

町内出身の二十歳を迎える（節目の年齢を迎える）新成人の方へ、町産材の木製記念品を例年贈呈しており、令和6年度は杉材を活用した“揃うと輪（和）になる”フォトスタンドを製作。

いち個人や1個のフォトスタンドでは、出来ないことが多いが、仲間が揃ったり、家族が揃ったり、フォトスタンドが複数揃うことで、友情や愛情の輪（和）が出来上がり、これから社会へ飛び出す若者へのエールと共に、「人も木も、たくさんの人の手によって守られ、育まれてきたことを改めて知ってほしい」という想いを込めた記念品であると、ウッドラボいけだ職員からの説明を受け、贈呈された。

今後も森林資源を活用した木製品を検討し、木材利用の普及につなげていく。



二十祭の式典で贈呈された町産杉材で製作されたフォトスタンドを手にする新成人たち

公共施設等の木材利用

■ ウッドファースト事業

町内在住の満1歳を迎える幼児に「積み木」を贈呈し、幼少期から木の温もりに触れることで、木材の良さを伝えとともに町産材の利用促進を図った。



満1歳の幼児に贈呈される
積み木（木コロン）

■ 池田小学校新1年生へ 学習机セット贈呈事業

池田小学校へ入学する新1年生へ、6年間利用できる学習机と椅子のセットを贈呈し、6年間使うことで木の優しさ・愛着を伝え、木材や森林への興味を育む取組みを行った。



新1年生に贈呈された学習机セット

■ ウッドスポーツ事業

池田町発祥のウッドスポーツ「ゲッター選手権」を通じ、町内外の出場者に新たな木材利用や木の魅力を体験してもらい、木材活用の普及啓発を図った。



ゲッター選手権大会の様子

普及啓発事業

■ ホームページ

池田町の森林政策「木望の森100年プロジェクト」の推進にあたり専用のHPを開設しており、各情報を発信し、普及啓発を図った。



その他関連事業

■ ウッドクラブ

池田小学校4～6年生の一部児童を対象に、町産材を使った木工製品づくり「ウッドクラブ」を展開。

一人一人が独自に設計から製作まで行い、世界に1つしかないオリジナル品を作りあげ、木に触る楽しさ、木の香りを感じながら、木工製品の魅力や森林へ興味を抱くような取り組みを行い、木材利用や普及啓発を図った。



森林環境譲与税の決算状況

■これまでの森林環境譲与税の決算状況

単位／千円

年度	森林環境 譲与税 a	基金 取崩額 b	充当額 c= d+e+f+g+h	森林整備 事業 d	人材育成 事業 e	普及啓発 事業 f	公共施 設等の 木材利用 g	その他 h	年度基金 積立額 i= a+b-c	森林環境 譲与税 基金額 J
元年度	12,575	0	0	0	0	0	0	0	12,575	12,575
2年度	26,724	0	8,336	7,029	0	969	0	338	18,388	30,963
3年度	26,880	0	14,756	13,420	420	77	839	0	12,124	43,087
4年度	34,410	7,500	41,910	34,490	2,585	165	4,670	0	0	35,555
5年度	34,410	0	34,410	19,204	429	66	14,711	0	0	35,555
6年度	47,973	0	47,973	26,305	1,013	77	20,578	0	0	35,555